

資料3 管理運営の方向性

管理運営の方向性	基本的な考え方	基本計画策定後に具体的な検討が必要と見込まれる課題
道北の文化芸術の拠点として、 ① 市民や興行主等が自ら催しを 開催したくなる仕組みづくり	・ 興行事業や高い芸術性を備えた事業など、市内外から多くの鑑賞者が訪れる事業を開催しやすい運営	・ 利用申込の仕組み（予約の優先順位等） ・ 自主事業・共催事業についての考え方 等
	・ 気軽に施設を利用して活動したり、催しを鑑賞するために訪れられる仕組み	・ チケット販売の仕組み ・ 様々な決済方法への対応（施設使用料、チケット代金等） ・ web等での利用申込対応 等
時代のニーズに柔軟かつ速やかに ② 対応可能な管理運営体制の構築	・ 施設内及び周辺市街地のにぎわい創出	・ 従来の文化芸術事業の枠に留まらない事業の扱い ・ 販売を伴う催事の扱い ・ 開館時間、設営・撤収対応時間の設定 等
	・ 市民や施設利用者のニーズを捉え、運営に反映する仕組み	・ 市民の施設運営への関わり方 ・ 長期的な視点での事業展開 ・ 事業を企画運営・コーディネート、アウトリーチなど、各分野にノウハウを持つ人材の登用 等
	・ 情報を集約・発信する拠点としての役割	・ 市内外の文化芸術情報を集約する機能 ・ 公演情報等を他施設と共有する仕組み ・ 情報発信の仕組み ・ 文化芸術活動を始めたい人の相談窓口機能 等
サービスの質の向上と ③ 適切な採算管理の両立による 持続可能な施設運営	・ 将来にわたって施設を維持・運営していくために、施設の運営費・事業費について、自ら一定程度を確保可能な仕組み	・ 利用料金体系（営利事業に対する料金、市民／市外料金等） ・ 施設の収益を管理運営に生かすことができる仕組み 等
	・ コストパフォーマンスに優れた管理運営	・ 管理運営手法の選定（民間活力の活用等） 等

整備手法・管理運営手法の検討に反映（※）

※ 基本計画において確定するのではなく、基本計画の策定後の行程（「事業手法の選択」や「管理運営手法の検討」）に向けた整理として作成